



定時総会報告… 2～3

令和3年度収支決算書… 4～5

第25回教育研究論文・教育実践賞

特選受賞者インタビュー… 6

フードドライブPR… 7

土曜公開講座のご案内… 7

公募委員会の活動紹介… 8～9

基礎講座参加者の声… 10

長野県PTA連合会との懇談会… 11

リレー通信 わたし自慢③

ボブスレーと出会って

梨子田昌央（南宮中学校）… 11

100年館の絵

宮澤和可奈（辰野西小学校）… 12

会員ひろば

田中亚美花（箕輪東小学校）… 12



上松町の赤沢美林には、木曽檜のウッドチップが敷いてあり、とても心地よい散策路になっています。上松小学校の中庭に同じウッドチップを敷いて整備しました。駒ヶ岳の麓の水が流れる池や東屋がある素敵な中庭に、木の香りがするふかふかの小道ができました。（上松小学校）

8月の研修ガイド

1日（月）～ 6日（土）

- 第105回信濃木崎夏期大学 ◎信濃木崎夏期大学（大町市木崎湖畔）◇「ウィズコロナ時代の医学研究：コロナ対応から学ぶこと」永井良三，「明清史から見る現代中国～世論・市場・国家統合～」岸本美緒，「現代史を考える」塩川伸明，「第4次産業革命・ポストコロナ時代の学びのイノベーション～世界と日本～」佐藤学，「現代に生きるダーウィン 進化の視点からヒトと人間社会を考える」長谷川寿一，「『源氏物語』宇治十帖の世界」藤原克己 ☆北安曇教育会 0261-22-0440

- 29日（月）●教育懇談会（先輩の話を聞く会） ◎東筑摩塩尻教育会館 講堂 ◇「東筑摩郡私立教育会の創立とその活動～開発主義教授法の普及と教育雑誌の刊行を中心として～」青柳直良（平成12年度東筑摩塩尻教育会長） ☆東筑摩塩尻教育会 0263-32-1187

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等（講師名敬称略） ☆連絡先

定時総会報告

自らの「観」を形成するために、集い学び合う教育会
長野県らしい教員研修を推進していくために、
信濃教育会の役割と存在価値を高めていこう

令和４年度第１回定時総会が６月２８日（火）に信濃教育会館講堂において、各郡市教育会から選出された全代議員５０名中４６名の出席のもと開催された。最初に総会の正副議長が選出され、第１号議案及び第２号議案が上程され、報告・承認・選任された。続いて別室で開催された臨時理事会では、５名の理事及び２名の監事の出席のもと、定款第２２条第１項の規定に基づき、副会長及び常務理事各１名が選定された。以下定時総会の概略を報告する。

【武田会長あいさつ】

○教育基本法第9条は教員について書かれている。第1項において「研究と修養」と言い、第2項では「研修」となるが、「研究と修養」を縮めて「研修」と解するのが普通のものである。

○「修養」を辞書で引くと「精神を錬磨し、優れた人格を形成するよう努めること」であるが、何をすれば「修養」となるのかは判然としない。信州の教員の先輩方は、哲学を学び、文学を研究してきた。それは学問的な追究であり「修養」でもあり「研究」でもある。また、自然を「研究」し歴史や文化を「研究」することが、人格形成に影響しないはずもない。結局、「研究と修養」を分けることはできず、どちらも「研修」であるように思える。このことについては、雑誌『信濃教育』第1627号（令和4年6月号）のりレーエッセー、「生かされて生きる～『教員研修』とその自省的考察～」に小林正佳氏が書かれている。

○免許更新制が廃止され、今後は教員の研修履歴を元に、校長には教員を指導助言することが求められるという。指導法や教材論、学習理論や指導スキルなどの研修はもちろん大事だろうが、読書や地域の人との語り、野鳥の観察や地域文化の保護などを、研修と考える校長とそうでない校長の指導助言では、その教員の力量形成に大きな影響を及ぼすように思う。

○結局、教育とは何か、人が学ぶとはどういうことか、子どもはどういう存在なのか、という教育観や子ども観の問題に還ってくる。信州の先輩教員が、自らの「観」を形成するために、教育会に集い、自主的、自立的に学んできた理由が改めてわかるような気がする。

○また、免許更新制廃止後は、教員の自主的な研修を

重視し、任命権者の研修ばかりでなく、民間の研修も認めていく方向であると聞く。長野県では10年前から既に信濃教育会や郡市教育会の研修を、指定研修の校外研修として認めてもらっているが、本県の研修体系が時代の一歩先にいることがはっきりした。今後、更に長野県らしい教員研修を推進していくためにも、信濃教育会や郡市教育会の存在価値を高めていく必要がある。

【正副議長の選出】

議長 長野上水内教育会 海沼 敦 代議員
副議長 大学教育会 西 一夫 代議員

【議事】

報告事項「令和3年度公益社団法人信濃教育会事業報告」に関する件

第1号議案 「令和3年度公益社団法人信濃教育
会決算の承認」に関する件（別掲）

第2号議案「公益社団法人信濃教育会 補欠理事
2名の選任並びに副会長及び常務理事候補者の
選任」に関する件

【協 議】

- (1) 令和4年度信濃教育会事業
- (2) 令和4年度信濃教育会収支予算書
- (3) 令和4年度総会の年間計画

【臨時理事会報告】（新役員の選定結果）◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

副会長 村松 浩幸 氏
常務理事 塩野入幸隆 氏

【報告・連絡】

- (1) 教育研究所本年度の運営方針
- (2) 講習・講座の計画

(別掲)

公益目的事業収支決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位＝円)

科 目	本年度決算額	本年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	259	355	96
(2) 受取会費	152,316,643	152,205,900	△110,743
(3) 事業収益	40,861,148	38,875,500	△1,985,648
1 購読収益	14,690,160	13,893,000	△797,160
2 受取印税	25,813,208	24,400,000	△1,413,208
3 講座受講料	259,780	532,500	272,720
4 会館使用料	98,000	50,000	△48,000
(4) 受取寄付金	0	0	0
(5) 雑収益	443,525	408,099	△35,426
経常収益合計 (A)	193,621,575	191,489,854	△2,131,721
2 経常費用の部			
【公益目的事業費】	156,655,566	186,630,454	29,974,888
(1) 職能研修事業費	18,263,214	40,927,000	22,663,786
1 研究調査費	2,793,943	5,681,000	2,887,057
1 委員会費	1,584,700	3,589,000	2,004,300
2 旅費交通費	13,970	120,000	106,030
3 通信運搬費	256,847	420,000	163,153
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	44,819	160,000	115,181
6 印刷製本費	632,192	1,040,000	407,808
7 諸謝金	89,096	302,000	212,904
8 雑費	172,319	50,000	△122,319
2 福祉教育資料研究調査費	179,050	264,000	84,950
1 委員会費	122,570	190,000	67,430
2 旅費交通費	0	24,000	24,000
3 通信運搬費	2,480	5,000	2,520
4 支払助成金	40,000	40,000	0
5 支払寄付金	0	0	0
6 雑費	14,000	5,000	△9,000
3 教育研究所運営費	2,820,891	5,273,000	2,452,109
1 委員会費	147,820	320,000	172,180
2 旅費交通費	782,690	2,848,000	2,065,310
3 通信運搬費	144,703	170,000	25,297
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	183,274	286,000	102,726
6 印刷製本費	483,863	500,000	16,137
7 諸謝金	991,193	920,000	△71,193
8 支払負担金	25,000	40,000	15,000
9 雑費	62,348	189,000	126,652
4 講習講演会費	3,454,363	6,314,000	2,859,637
1 旅費交通費	1,389,228	2,680,000	1,290,772
2 通信運搬費	74,091	192,000	117,909
3 消耗品費	147,030	410,000	262,970
4 印刷製本費	33,880	70,000	36,120
5 賃借料	131,500	200,000	68,500
6 諸謝金	918,400	1,280,000	361,600
7 支払助成金	550,000	1,020,000	470,000
8 雑費	210,234	462,000	251,766
5 教育研究大会費	2,413,507	9,140,000	6,726,493
1 旅費交通費	671,780	3,260,000	2,588,220
2 通信運搬費	88,792	105,000	16,208
3 消耗品費	44,510	100,000	55,490
4 印刷製本費	30,030	100,000	69,970
5 賃借料	0	200,000	200,000
6 諸謝金	178,192	1,590,000	1,411,808
7 支払負担金	100,000	100,000	0
8 支払助成金	1,300,000	3,215,000	1,915,000
9 委託費	0	300,000	300,000
10 雑費	203	170,000	169,797
6 視察派遣助成費	544,942	6,075,000	5,530,058
1 委員会費	0	570,000	570,000
2 旅費交通費	18,810	500,000	481,190
3 通信運搬費	24,532	60,000	35,468
4 支払負担金	319,600	380,000	60,400
5 支払助成金	156,000	4,510,000	4,354,000
6 雑費	26,000	55,000	29,000
7 教育会研修助成費	566,500	1,000,000	433,500
1 支払助成金	566,500	1,000,000	433,500
8 応募型研修助成費	5,490,018	7,180,000	1,689,982
1 旅費交通費	33,960	15,000	△18,960
2 通信運搬費	19,794	30,000	10,206
3 消耗品費	35,579	80,000	44,421
4 印刷製本費	0	30,000	30,000
5 諸謝金	55,685	25,000	△30,685

6 支払助成金	5,345,000	7,000,000	1,655,000
(2) 教育図書研究調査事業費	21,656,387	29,063,000	7,406,613
1 教科用図書研究委員会費	4,497,059	9,345,000	4,847,941
1 委員会費	3,241,005	6,941,000	3,699,995
2 旅費交通費	22,050	605,000	582,950
3 通信運搬費	114,020	255,000	140,980
4 消耗什器備品費	106,370	200,000	93,630
5 消耗品費	507,914	1,132,000	624,086
6 諸謝金	44,548	80,000	35,452
7 雑費	461,152	132,000	△329,152
2 学術図書研究委員会費	17,159,328	19,718,000	2,558,672
1 委員会費	229,410	340,000	110,590
2 旅費交通費	36,330	100,000	63,670
3 通信運搬費	2,213,649	2,500,000	286,351
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	52,666	80,000	27,334
6 印刷製本費	12,226,511	13,315,000	1,088,489
7 諸謝金	1,417,246	1,895,000	477,754
8 期首商品棚卸高	14,044,593	14,300,000	255,407
9 期末商品棚卸高	△14,377,399	△14,500,000	△122,601
10 雑費	1,316,322	1,688,000	371,678
(3) 生涯学習振興事業費	3,316,503	3,892,000	575,497
1 教育博物館運営費	1,084,887	1,623,000	538,113
1 委員会費	194,100	427,000	232,900
2 旅費交通費	8,670	50,000	41,330
3 通信運搬費	104,009	136,000	31,991
4 消耗品費	111,104	170,000	58,896
5 印刷製本費	344,630	460,000	115,370
6 諸謝金	22,274	50,000	27,726
7 支払助成金	300,100	300,000	△100
8 雑費	0	30,000	30,000
2 生涯学習推進支援事業費	2,231,616	2,269,000	37,384
1 委員会費	27,590	70,000	42,410
2 旅費交通費	60,580	120,000	59,420
3 通信運搬費	118,716	150,000	31,284
4 消耗什器備品費	0	50,000	50,000
5 消耗品費	81,601	250,000	168,399
6 修繕費	649,000	150,000	△499,000
7 印刷製本費	0	0	0
8 光熱水料費	392,783	470,000	77,217
9 保険料	210,700	189,000	△21,700
10 諸謝金	89,096	100,000	10,904
11 委託費	539,440	570,000	30,560
12 雑費	62,110	150,000	87,890
(4) 事業共通費	113,419,462	112,748,454	△671,008
1 役員報酬	5,615,754	4,529,560	△1,086,194
2 給料手当	61,215,011	61,202,540	△12,471
3 退職給付費用	2,484,325	2,419,209	△65,116
4 福利厚生費	10,267,547	9,896,279	△371,268
5 会議費	333,782	800,400	466,618
6 委員会費	82,502	133,760	51,258
7 旅費交通費	669,017	700,350	31,333
8 渉外応接費	173,164	400,200	227,036
9 通信運搬費	735,955	991,500	255,545
10 減価償却費	9,298,532	8,927,853	△370,679
11 消耗什器備品費	0	0	0
12 消耗品費	3,416,800	1,718,600	△1,698,200
13 修繕費	291,623	198,300	△93,323
14 印刷製本費	606,793	533,600	△73,193
15 光熱水料諸費	11,570,807	11,765,800	194,993
16 賃借料	2,620,487	3,001,500	381,013
17 保険料	226,961	217,383	△9,578
18 租税公課	1,729,056	2,710,320	981,264
19 支払負担金	1,603,327	2,134,400	531,073
20 委託費	11,154	0	△11,154
21 雑費	466,865	466,900	35
【管理費】	42,123,112	42,832,931	709,819
1 会議費	539,753	1,945,200	1,405,447
1 総会費	375,900	1,600,000	1,224,100
2 理事会費	41,070	50,000	8,930
3 監事会費	18,600	30,000	11,400
4 共通会議費	104,183	265,200	161,017
2 会報発行費	3,595,252	3,758,000	162,748
1 委員会費	15,690	57,000	41,310
2 旅費交通費	3,000	50,000	47,000
3 通信運搬費	809,954	800,000	△9,954
4 消耗品費	3,547	16,000	12,453
5 印刷製本費	2,713,161	2,800,000	86,839
6 諸謝金	0	30,000	30,000
7 雑費	49,900	5,000	△44,900

3 事務費	37,988,107	37,129,731	△858,376
1 役員報酬	4,728,462	5,817,360	1,088,898
2 給料手当	16,112,133	15,942,620	△169,513
3 退職給付費用	775,433	801,567	26,134
4 福利厚生費	3,204,811	3,278,977	74,166
5 旅費交通費	227,960	282,050	54,090
6 渉外応接費	434,202	732,600	298,398
7 通信運搬費	297,691	356,000	58,309
8 減価償却費	1,773,262	1,693,013	△80,249
9 消耗什器備品費	0	0	0
10 消耗品費	1,376,369	682,400	△693,969
11 修繕費	143,607	117,200	△26,407
12 印刷製本費	415,338	476,800	61,462
13 光熱水料諸費	3,690,243	3,987,200	296,957
14 賃借料	817,933	994,500	176,567
15 保険料	57,983	55,544	△2,439
16 租税公課	1,050	0	△1,050
17 支払負担金	516,327	757,200	240,873
18 委託費	476,482	500,000	23,518
19 雑費	2,938,821	654,700	△2,284,121
経常費用合計 (B)	198,778,678	229,463,385	30,684,707
当期経常増減額 (A) - (B)	△5,157,103	△37,973,531	△32,816,428
他会計振替額	14,435,497		
当期一般正味財産増減額	9,278,394		
一般正味財産期首残高	334,174,484		
一般正味財産期末残高	343,452,878		
Ⅱ 正味財産期末残高	343,452,878		

出版事業収支決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度決算額	本年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	11	14	3
(2) 事業収益	14,623,027	14,940,000	316,973
1 購読収益	12,155,200	12,240,000	84,800
2 受取印税	2,467,827	2,700,000	232,173
(3) 雑収益	2,324	4,900	2,576
経常収益合計 (A)	14,625,362	14,944,914	319,552
2 経常費用の部			
1 役員報酬	473,169	472,600	△569
2 給料手当	3,084,530	2,950,060	△134,470
3 退職給付費用	132,301	126,945	△5,356
4 福利厚生費	546,792	519,295	△27,497
5 会議費	17,776	42,000	24,224
6 委員会費	219,708	306,240	86,532
7 旅費交通費	35,628	36,750	1,122
8 渉外応接費	9,222	21,000	11,778
9 通信運搬費	851,010	754,000	△97,010
10 減価償却費	351,102	341,503	△9,599
11 消耗什器備品費	0	0	0
12 消耗品費	224,544	103,600	△120,944
13 修繕費	16,080	10,800	△5,280
14 印刷製本費	5,481,494	5,578,000	96,506
15 光熱水料諸費	638,032	640,800	2,768
16 賃借料	223,450	327,500	104,050
17 保険料	6,935	6,793	△142
18 租税公課	612,131	1,000,040	387,909
19 支払負担金	85,384	112,000	26,616
20 委託費	1,215,587	1,200,000	△15,587
21 雑費	283,776	304,500	20,724
経常費用合計 (B)	14,508,651	14,854,426	345,775
当期経常増減額 (A) - (B)	116,711	90,488	△26,223
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	116,711		
法人税・住民税及び事業税	38,300		
当期一般正味財産増減額	78,411		
一般正味財産期首残高	37,907,418		
一般正味財産期末残高	37,985,829		
Ⅱ 正味財産期末残高	37,985,829		

不動産貸与事業収支決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度決算額	本年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			

(1) 特定資産運用益	2,008	4,011	2,003
(2) 事業収益	14,278,600	14,314,600	36,000
1 貸家賃貸料	9,994,600	9,970,600	△24,000
2 貸地賃貸料	4,284,000	4,344,000	60,000
(3) 受取負担金	2,024,146	3,000,000	975,854
(4) 雑収益	181	1,000	819
経常収益合計 (A)	16,304,935	17,319,611	1,014,676
2 経常費用の部			
1 役員報酬	473,169	472,600	△569
2 給料手当	2,304,801	2,297,060	△7,741
3 退職給付費用	102,901	101,556	△1,345
4 福利厚生費	425,283	415,436	△9,847
5 会議費	13,825	33,600	19,775
6 旅費交通費	41,571	29,400	△12,171
7 渉外応接費	7,172	16,800	9,628
8 通信運搬費	31,807	43,500	11,693
9 減価償却費	4,771,663	4,594,419	△177,244
10 消耗什器備品費	92,680	0	△92,680
11 消耗品費	164,171	75,400	△88,771
12 修繕費	123,704	108,700	△15,004
13 印刷製本費	25,133	22,400	△2,733
14 光熱水料諸費	2,583,060	3,566,200	983,140
15 賃借料	532,451	626,000	93,549
16 保険料	157,359	145,290	△12,069
17 租税公課	1,727,413	2,089,640	362,227
18 支払負担金	66,410	89,600	23,190
19 委託費	462	0	△462
20 雑費	109,587	99,600	△9,987
経常費用合計 (B)	13,754,622	14,827,201	1,072,579
当期経常増減額 (A) - (B)	2,550,313	2,492,410	△57,903
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	2,550,313		
法人税・住民税及び事業税	42,700		
当期一般正味財産増減額	2,507,613		
一般正味財産期首残高	175,357,785		
一般正味財産期末残高	177,865,398		
Ⅱ 正味財産期末残高	177,865,398		

災害見舞金事業収支決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度決算額	本年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	40,289,800	26,770,020	△13,519,780
(2) 受取会費	3,000,000	3,000,000	0
経常収益合計 (A)	43,289,800	29,770,020	△13,519,780
2 経常費用の部			
1 役員報酬	1,254,507	1,254,680	173
2 給料手当	3,539,191	3,598,920	59,729
3 退職給付費用	180,077	177,723	△2,354
4 福利厚生費	744,245	727,013	△17,232
5 会議費	86,474	358,800	272,326
6 旅費交通費	48,494	51,450	2,956
7 渉外応接費	12,552	29,400	16,848
8 通信運搬費	72,409	90,000	17,591
9 減価償却費	298,949	284,553	△14,396
10 消耗什器備品費	0	0	0
11 消耗品費	249,513	130,000	△119,513
12 修繕費	21,296	15,000	△6,296
13 印刷製本費	101,404	39,200	△62,204
14 光熱水料諸費	844,962	890,000	45,038
15 賃借料	189,946	220,500	30,554
16 保険料	10,402	9,990	△412
17 支払負担金	116,218	156,800	40,582
18 支払見舞金	4,123,000	15,000,000	10,877,000
1 死亡・障害見舞金	3,000,000	9,000,000	6,000,000
2 入院・通院見舞金	1,123,000	3,000,000	1,877,000
3 自然災害見舞金	0	3,000,000	3,000,000
19 委託費	808	0	△808
20 雑費	51,601	39,300	△12,301
経常費用合計 (B)	11,946,048	23,073,329	11,127,281
当期経常増減額 (A) - (B)	31,343,752	6,696,691	△24,647,061
当期経常外収益	83,335		
他会計振替額	△14,435,497		
当期一般正味財産増減額	16,991,590		
一般正味財産期首残高	1,253,462,796		
一般正味財産期末残高	1,270,454,386		
Ⅱ 正味財産期末残高	1,270,454,386		

第25回「教育論文・教育実践賞」

「特選」 受賞者インタビュー

個人の部 特選 花田養護学校 磯愛香先生

Q 磯先生のこれまでの歩みは？

A 大学では教育学部で障がい児教育について学びました。卒業後は他県で一般企業へ就職。その後長野県に来て講師を経験し今の花田養護学校が私の初任校になります。講師から数えると教員8年目です。



Q 論文からは子どもへの関わり方に温かいまなざしを感じます。子どもの内面、特に心の動きをとらえようとする磯先生の見方はどこからきているのでしょうか？

A どの子にもその子の世界のルールがあると思っています。それは私たちが考えているルールとは異なる世界かもしれません。例えばディズニーランド。多くの人にとっては楽しいと思うけど、音や光に過敏性がある子にとってはつらい場所になるかもしれませんね。私たちの世界にとってはわがままに思うようなことでもその子の世界のなかではどういう意味があるんだろうと、考えるようにしています。

Q そう思うようになったきっかけは？

A 大学の授業で「奇跡の詩人（NHK）」を学んだ際、重度のお子さんの気持ちを誰が代弁しているのかって思ったんですね。その子の本当の気持ちって何だろう？その子の気持ちを知りたいという、その時の問いが今でもずっとあるのかもしれない。

Q 長野県で教員になろうと思ったのはどうして？

A 講師を経験したときに長野県には専門性の高い先生が多く、この先も長野の先生方と一緒に仕事をしたいと思って長野県で教員採用試験を受けました。先生方の子どもたちへの見方を学びたいしその先生方から今後も学び続けたいと思っています。

Q 研究はややもすると苦しいもの、やらされるイメージがあるけれど、磯先生は楽しそうに感じますが、楽しいですか？

A 楽しいです。自分のなかで必要感のあることをやらせてもらっているからかな？授業づくりというよりも子どもの見方を深めるための研究にしています。「今、この生徒たちに、この先生たちと、この研究！」をテーマに、周りの先生方と協力しています。

Q お休みの日には？

A お茶を飲みながら本を読んだり映画見たりするのが好きです。

磯先生へのインタビューから、子どもを慈しむ気持ち、自分の問いに対し、自分がやりたいことを研究していくことは楽しいこと、また、長野県の先生方は同僚性が高くお互いに勉強しようという風土があるということを改めて感じました。

特選論文は雑誌『信濃教育』7月号に掲載されています。

フードドライブで

『もったいない』を『ありがとう』へ



フードドライブとは家庭であまっている食べ物を持ち寄り、それらを取りまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動のことを言います。信濃教育会も会員のみなさまのご協力をいただき、社会福祉活動に取り組んでいます。

賞味期限が1ヶ月以上あり、未開封の食品等の寄付をお願いしています。
みなさまの温かいお気持ちをお待ちしております。

加工食品の場合、賞味期限が1ヶ月以上のものをお受けしています。

フードバンクでは、“マッチング”といって、必要なものを必要な数だけ必要なところへお渡しします。そのマッチングのための時間や、賞味期限内に確実にきちんと使っていただくためです。



〈会館2階 食堂前〉



例) お米/缶詰/インスタント食品(ストロ・カップ麺)/お菓子 など

教育研究所 第2回土曜公開講座

令和4年9月3日(土) 午後10時～

Zoomによるオンライン講座

講師：松木 健一 先生

福井大学理事・副学長 信濃教育会教育研究所特任所員

演題：「超スマート社会だからこそ、学びを問い直す」

研究員がみなさんから寄せいただいた悩みを
松木先生にぶつけます！



【申し込み方法】

参加希望の方は右記①②
いずれかの方法でお申し込みください。

申し込み締め切り日以降、
当日の参加に関わる連絡
をメールにてお知らせします。

① Google フォームよりオンラインで



② 信濃教育会 HP より申込
書を印刷してご記入の上
FAX (026-232-1188) で

多くの方のご参加をお待ちしています！

申込〆切 8/26(金)

令和4年度 公募委員会の活動紹介

今、学びたいと思っている人が学ぶことができるように、従来の委員を郡市に割り当てる方式から、公募制に変わった5つの委員会をご紹介します。各委員会は会員なら誰でも応募することができます。

ICT 研究調査委員会

ICT を窓口に新たな授業スタイルを考えます

委員会は全てオンラインで行います。公募により10名の委員会となりました。先進地視察を通して互いに報告・研修を深め、成果を会員に伝えていくことを使命としています。これまでに New Education Expo2022（東京）、屋代高校附属中学校への視察を行いました。児童生徒に1人一台端末が整備されました。まだまだICT活用の仕方やルールづくりに意識が向きがちですが、機器の活用が目的ではなくどのような授業をめざしていくか、授業観そのものを問い直すことにもなるかと思います。今年度は信州大学教育学部の佐藤和紀准教授にご参加いただきながらICTを活用した新たな授業スタイルを考えていきます。（写真：NEE（東京）視察より）



学級づくり研究調査委員会

集団づくりの難しさとやりがいを共有

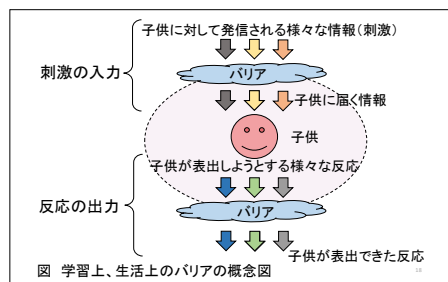
子どもたちが楽しく、安心して学校生活を送ることができるために、学級づくりは重要なこと。しかし、子どもたちの個性や特性が輝くような集団にするのはなかなか難しい。本委員会は、日ごろの困難さや悩みを共有し、大学の先生や先輩の先生に学びながら、集団づくりの難しさとやりがいを感じていくことをねらいとしています。今年も8名の先生が応募してくださり、共に学んでいく予定です。



「自閉症スペクトラム (ASD) 児への支援」研究調査委員会 「学びのバリアフリー」について考える

本年度は委員会の名称を分かりやすい名称としました。

6月20日の第2回委員会では、元文部科学省調査官で現在松本大学教授の樋口一宗先生の講義とフリートークを行いました。「支援が必要な子どもたちは、生活や学習の中で、『バリア』を感じている。それを軽減したり解消したりすることが重要で、教師の想像力とアイデアと発達障がいへの基本的な知識が必要」というお話をいただきました。今後事例研究や先進校視察を行いながら、個々に研究調査を深めていきます。



牛山榮世先生遺稿集編集委員会

牛山榮世先生の遺されたメモ・資料を遺稿集として出版し後世に伝えたい

『学びのゆくえ』の著者でもあり、生活科・総合の実践者である牛山榮世先生の生前書かれたメモや所感、資料など、ご遺族のご厚意で信濃教育会に寄贈していただきました。この貴重な資料を「遺稿集」として出版し後世に残したい、そんな願いのもと11名の委員が公募に応じてくださいました。今年は2年目となります。折々に綴られたメモを読んで解釈し原稿に起こすことは、牛山先生の教育観や子ども観と向き合い、一語一句の意味を問う、それは同時に教師としての自分自身のあり様を見つめる、そんな時間にもなっています。



「新しい時代の教育」研究調査委員会 時代の変化に対応するために学びを深める

学校に「変化」が求められる時代。しかし、教育は子どもを中心に考えるべきもの。新しい時代の教育を子ども視点で、学校を変えていくにはどうしたらいいのか、研究調査します。各郡市から推薦者及び自ら応募してくれた方、計16名で研究調査します。講師陣は大学教官、元教育長、民間の教育研究者、企業の人事担当者など多彩な顔ぶれです。





合唱



「歌うことを止めてはいけない」という熱い思いを…

5月7日(土) 塩尻市立片丘小学校 ※オンラインでの開催

受講者数 78名



○短い時間でしたが、課題曲のポイントを教えていただきとてもよかったです。難しくてどうすればいいか困っていましたが、どう音楽をとらえればいいのか、藤原先生の言葉、指揮、全身から伝わってきました。先生の全身から音楽があふれ出る講座に参加し、連休明け、また子どもたちと一緒に歌うことを楽しみたい！と思いました。

○コロナ禍で制限がある中での、オンラインにより開催された講座でしたが、充実した内容でした。藤原先生ならではの「発声や体の使い方」、「音の感じ方」、「多種多様なアプローチの仕方」など、大変勉強になりました。純粋に音楽の素晴らしさ、それに携わっていることの幸せを感じました。

○このような時期ですが中止することなく、有意義な時間を作っていただいたことに本当に感謝します。開催地が遠いといきづらいため、このようにオンラインも利用できると多くの人が参加できます。



オーケストラ



仲間と共に音を紡ぐ・つながる

6月24日(金)・25日(土) 信濃教育会生涯学習センター

受講者数 45名

○初心者ですが、楽器体験とオーケストラを体験することができました。演奏者と指揮者の先生の呼吸音や楽譜に想いが書かれていく鉛筆の音など曲作りを体全体で体験することができ本当に楽しかったです。楽器体験では、パートリーダーの先生と音を合わせていただき、演奏曲を弾いている気分も味わうことができました。出来ない分からないことも一緒にやってくれる先生がいるだけでできるようになり、もっと好きになれると実感しました。

○打楽器、弦楽器、管楽器すべてで行える「オーケストラ」の開催、心待ちにしていました。3年ぶりにみなさんで一つのハーモニーを作り上げる喜びを味わうことができました。オーケストラ、音楽の楽しさと喜びを子どもたちに伝えていきたいと思います。

○今回は1日のみの参加でしたが、年一度、先生方と再会できるのも楽しみの一つです。パーカッション体験は、知りたい楽器についてとっても丁寧に分かりやすく教えていただきました。



練習風景



楽器体験

長野県 PTA 連合会との懇談会を初開催

6月15日（水）、信濃教育会応接室において長野県 PTA 連合会との懇談会を開催しました。

この懇談会は信濃教育会館の入居団体である県 PTA 連合会と協働して何か取り組めることはないかを模索するために今回初めて開催されました。

本会からは会長、局長、次長、県 PTA 連合会からは会長と6名の副会長が出席し、自己紹介や双方の事業紹介の後、自由な意見交換を行いました。

信濃教育会がどうい
う会わかりました



Youtube
での情報発信
いいですね



また秋に開催することを約束し、会を閉じました。



わたし自慢 ③⑤

ボブスレーと出会って

南宮中学校 梨子田昌央



「Bob in track」アナウンスが会場に響く。氷でできたコースを滑降するボブスレー（橇）が加速していく。コース沿いは、様々な国旗を振り、そのスピードと迫力に魅了され、競技開始を期待する観客の歓声で溢れている。1998年長野冬季五輪のスパイラル会場。スキージャンプにテストジャンパーがいるように、ボブスレーにもテストランナー（前走者）がいる。その前走者が滑走を終え、次の滑走に備えて橇をスタート地点まで運んでいるトラックの荷台で、忘れられない出来事があった。「お疲れ」



1998年 長野五輪前走

と無事、前走者として滑り終え、互いに握手をした。しかし強く握ったその手をいつまでも離さない。ひょうきんなそ

の選手が、またふざけているのかと顔を見ると、その目には涙が溢れていた。前走者には、オリンピック出場を目前にして残念ながら出場できなかった選手も多数集まる。悔しい思い、それまでの努力・犠牲、前走者としては出場したくない葛藤など、様々な想いを抱いている。私自身は、もしオリンピックに出場していたら、ボブスレーという競技を、その後長きに渡り楽しく続けられなかっただろう。また、様々な人との出会いや経験もなかったと思う。ボブスレーを通して得た、海外遠征での経験、全日本選手権でのパフォーマンスの作り方、何よりも真剣に物事に向かい合う人との出会いは、今の自分を支えている。夢を叶えることの難しさ、逆に、目の前のことに懸命に取り組みチャンスを逃さなければ夢が叶うこともあるということを、いつも胸の奥に大切にしている。

予告



「SDGsの実現に向けた取組」

持続可能な開発のための教育(ESD)について考える

「天竜川」は南信地区が誇る一級河川です。この天竜川の始まりのお話「暴れ天竜」を子どもたちに伝えるところから、今回の作品づくりが始まりました。

子どもの創造力というのは、本当に無限大です。見本の挿絵にとらわれずに、自分の中にある天竜を紙の上に表現しようと、下描きの段階からこだわりの見える子ばかり。二、三色のクレパスの色を紙において、指でこすって色を混ぜ合わせる技法で、天竜のうろこ一枚一枚色を変えながら、色づけをしていきました。塗っていくうちに、

子どもたちは近くの友だちの作品を覗いては、「その色いいね！何色で作るの？」と相談し始めます。でも、近い色はできても、色の配分、混ぜ具合で、「その子だけの色」になっていく面白さがあります。

丁寧に描き上げた自分だけの天竜と一緒に、子どもたちの心の中に信濃の天竜川がいつまでも残ってくれればと思います。そんな担任の思いを知ってか、作者の綾人さんは、長野県を超えて、更に、背景に富士山まで携えているので天竜川だけでなく、日本の富士もぎつと彼の心に残ることでしょう。

指導者
宮澤和可奈（辰野西小学校）

100年館の絵

令和3年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



空から川まできたこわい天りゅう
三澤 綾人（辰野西小二年）

信濃教育博物館所蔵

会 員 ひ ろ ば

運動会！ 結果よりも楽しむこと！

2年生は、2度目の運動会を行いました。本校では毎年恒例で、「運動会のめあて」を全校のひとりひとりが書いて飾りました。1年前の今頃、「運動会のめあて、どんなことが書ける？」とたずねると、「がんばってかちたい！」「かけっこで1いになりたい」など、とにかく1位になりたい、勝ちたいという気持ちが強いんだなあというめあてがほとんどでした。そして今年、1年前と同じように運動会のめあてを書きました。すると、去年とは一味違うめあてが増えていました。「まけても、さいごまであきらめずにはしりつづけたい」「かってもまけてもたのしめるうんどうかいにしたい」このような子どもたちのめあてを見て、「勝つ」「一位になる」という結果がすべてではないこと。それ以上に大切な物があるということに気付かされました。



（箕輪東小学校 田中亜美花）

教職員川柳

運動会 競技にダンス 大忙し
出めのなら 夜まで待とう 保護者連絡
2年目の ジンクスどこぞ 牧秀悟
トレンドは 午前で終わる 運動会
(黒柳 祐津子)
(青クリリン)
(赤ちようちん)
(応援団)
(応援団)

ご応募お待ちしております。

投稿はメールでお願いいたします。kaihou@shinkyo.or.jp

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。

